



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・シリア：シリア正面に関するイスラエル軍の備え

(6月29日付イスラエル各紙)

29日付イスラエル各紙が、イスラエル国防軍（IDF）北部方面軍第36機甲師団長タミール・ハイマン准将が記者に対して28日に実施した、ゴラン高原の視察とブリーフィングに基づき、同地域におけるIDFの備えについて報じている。

1. IDF関係者は、アサド体制崩壊後の混乱に乗じて、グローバル・ジハードのテロリストがイスラエル・シリア境界地域のコントロールを掌握し、ムバーラク政権崩壊後のシナイ半島と同様の状況になるケースを排除しておらず、シリアから攻撃が行われる可能性に備えている。
2. イスラエル・シリア境界地域のセキュリティを担当する第36機甲師団（ガアシュ）は、過去数カ月間にわたり、シリアでアサド体制に対して行動しているグローバル・ジハードが（イスラエル側に）越境攻撃する事態を含む、考え得る様々なシナリオに対する準備を整えてきた。IDFは、境界線に近いシリアのホラン地域が「ノーマンズ・ランド」となり、テロリズムの温床となることを警戒しており、IDFが事前に情報をつかめないままシリア側がロケット攻撃やIDF兵士誘拐を試みる可能性についても否定していない。また多数のシリア人が、アサド体制の残虐な弾圧から逃れようと、境界に押し寄せる可能性についても備えており、境界沿いの多くの地域で民間人を収容し、必要に応じてシリア軍部隊から人々を守る準備を整えている。
3. 国防省筋によれば、アサド体制の崩壊を主目的とするイスラム過激テロ組織がイラクその他の国からシリアに押し寄せており、軍をコントロールし、人々を残酷に扱っているようである。イスラエル側関係者は、シリア軍の機能とモラルは損なわれ、少なくとも12,000人の兵士が殺害されたと確信しており、直近の徴兵に応じた割合は、かつてないほど低いものであった。
4. 来年、軍は地形的に侵入される余地があるゴラン高原のイスラエル・シリア境界南部に沿ってバリアを強化することを予期している。